市立御前崎総合病院
第４期中長期計画
2025（令和７）年度 点検評価報告書

2026（令和８）年９月

御前崎市

目　次

1　点検・評価について　…… 1

2　数値目標に係る評価　…… 2

3　目標達成に向けた具体的な取組に係る評価　…… 5

4　収支計画　…… 9

5　2025（令和７）年度の経営状況　…… 11

6　現状の課題　…… 11

7　今後の経営方針　…… 12

1　点検・評価について

2022（令和 4）年 3 月に総務省から発出された「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、市立御前崎総合病院（以下「当院」という。）では、2024（令和 6 年）2 月に「市立御前崎総合病院・第 4 期中長期計画書（2024（令和 6）年度～2027（令和 9）年度）」（以下「本計画」という。）を策定しました。

本計画の実施状況の評価について、本計画第 11 章「点検・評価・公表」において、「評価に当たっては、市立御前崎総合病院中長期計画検討委員会にて進捗状況を毎年報告し協議します。」としています。

このたび、2025（令和 7）年度の実施状況について、点検・評価を行いましたので報告いたします。なお、評価基準については以下のとおりです。

＜評価基準＞

区分	定性評価	定量評価
S	計画を大きく上回る（極めて順調）	110%以上
A	計画を上回る（順調）	100%以上
B	概ね順調・計画どおり（注意が必要）	90%以上
C	多少の遅れあり（対策が必要）	80%以上
D	大幅に遅れあり（早急な改善が必要）	70%以上
E	停止・未着手（計画の抜本的な見直しが必要）	70%未満

2　数値目標に係る評価

（1）事業全体

項目	単位	2023年度	2024年度	2025年度				
		令和5年度	令和6年度	令和7年度				
事業全体		実績	実績	目標	**実績**	前年比	目標達成率	評価
経常収支比率	%	92.0	93.8	101.3	**88.3**	94.1%	87.2%	C
修正医業収支比率	%	79.9	82.4	85.6	**77.5**	94.1%	90.5%	B
資金不足比率	%	-	-	-	-	-	-	–
累積欠損金比率※ 【マイナス目標】	%	15.8	23.9	13.0	**41.1**	58.2%	31.6%	E

※累積欠損金比率については、計算式に誤りがあったため、中長期計画の目標値を訂正しております。

（進捗状況）

2025 年度（令和 7 年度）の事業全体の経営実績について、経常収支比率は 88.3%となり、前年実績（93.8%）を下回ったほか、目標値（101.3%）には届かず、目標達成率は 87.2%にとどまりました。

修正医業収支比率（繰入金を除く実質医業収支比率）は、77.5%となり、前年実績（82.4%）を下回ったほか、目標値（85.6%）にも届かず、目標達成率は 90.5%にとどまりました。

資金不足比率は、2025 年度に資金不足が発生していないため、算出および評価の対象外としています。

累積欠損金比率は、41.1%となり、前年実績（23.9%）および目標値（13.0%）から大きく乖離しており、目標未達成となりました。

（２）医療事業

項目				単位	2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度				
医療事業					実績	実績	目標	**実績**	前年比	目標達成率	評価
	収支改善指標	給与費比率【マイナス目標】		%	70.6	68.4	65.2	**75.7**	90.4%	86.1%	C
		経費比率【マイナス目標】		%	24.6	26.0	21.1	**30.0**	86.7%	70.3%	D
	収益確保指標	入院患者数	延べ入院患者数	人	56,901	58,084	60,014	**53,758**	92.6%	89.6%	C
			1日当たり新入院患者数（全体）	人	4.2	4.8	4.3	**3.9**	81.3%	90.7%	B
		外来患者数	延べ外来患者数	人	66,210	66,759	81,776	**62,237**	93.2%	76.1%	D
			初診外来患者数	人	7,288	7,353	7,344	**7,264**	98.8%	98.9%	B
		入院診療単価	急性期	円	55,789	54,778	57,000	**54,305**	99.1%	95.3%	B
			地域包括ケア	円			35,000				E
			回復期	円	35,294	36,802	36,908	**38,203**	103.8%	103.5%	A
			療養	円	21,816	21,717	21,445	**21,904**	100.9%	102.1%	A
		外来診療単価		円	15,924	14,895	17,000	**14,782**	99.2%	87.0%	C
		病床稼働率（全体）		%	80.6	82.5	82.6	**77.0**	93.3%	93.2%	B
		急性期平均在院日数（地域包括ケア含む）		日	13.0	12.1	13.7	**13.0**	107.4%	94.9%	B
		医師数		人	12	13	11	**12**	92.3%	109.1%	A
		看護師数		人	113	108	120	**103**	95.4%	85.8%	C
		看護助手・介護職員数		人	38	35	35	**33**	94.3%	94.3%	B
		医療技術員数		人	71	74	75	**76**	102.7%	101.3%	A
	医療機能に係る指標	地域医療救急貢献率		%	59.8	62.2	69.1	**66.5**	106.9%	96.2%	B
		健診実施件数		件	5,879	5,676	5,841	**5,492**	96.8%	94.0%	B
	医療の質に係る指標	在宅復帰率		%	97.7	96.6	80.0	**96.8**	100.2%	121.0%	S
		患者満足度	入院	点	4.29	4.29	4.50	**4.26**	99.3%	94.7%	B
			外来	点	4.26	4.18	4.30	**4.27**	102.2%	99.3%	B
	連携強化に係る指標	紹介率		%	28.0	27.9	25.0	**27.6**	98.9%	110.4%	S
		逆紹介率		%	28.2	32.3	24.0	**30.5**	94.4%	127.1%	S
		1か月あたり医療施設、クリニック訪問件数		件	6.4	10.0	10.0	**10.8**	108.0%	108.0%	A

（進捗状況）

2025（令和 7）年度の医療事業は、延べ入院患者数が 53,758 人（前年比 92.6%）となり、前年実績を下回るとともに目標（60,014 人）に届きませんでした。外来患者数についても、延べ外来患者数が 62,237 人（前年比 93.2%）にとどまり、目標（81,776 人）を下回る結果となりました。さらに、外来診療単価は 14,782 円（前年比 99.2%）と近年減少傾向が続いており、前年実績及び目標（17,000 円）を下回りました。また、看護師数は 103 人（前年比 95.4%）となり、目標（120 人）及び前年実績（108 人）を下回りました。

こうした医療需要の変化や人員確保の難航に対して、病床機能や規模の適正化を含めた診療機能の抜本的な見直しに迫られています。

（３）その他関連事業

項目			単位	2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度				
介護事業				実績	実績	目標	**実績**	前年比	目標達成率	評価
	収支改善指標	事業収支比率	%	87.1	92.4	89.2	**82.1**	88.9%	92.0%	B
	費用削減指標	給与費比率【マイナス目標】	%	116.2	89.4	96.0	**99.6**	89.8%	96.4%	B
		経費比率【マイナス目標】	%	14.9	11.4	10.5	**14.5**	78.6%	72.4%	D
	収益確保指標	訪問看護件数	件	4,847	5,531	7,500	**5,058**	91.4%	67.4%	E
		居宅介護支援人数	人	783	804	1,000	**928**	115.4%	92.8%	B
	経営安定性指標	看護師数	人	7	5	8	**6**	120.0%	75.0%	D
附帯事業										
	収支改善指標	事業収支比率	%	94.4	104.3	103.1	**98.1**	94.1%	95.2%	B
	費用削減指標	給与費比率【マイナス目標】	%	73.4	66.1	66.8	**70.8**	93.4%	94.4%	B
		経費比率【マイナス目標】	%	21.5	19.6	19.7	**20.7**	94.7%	95.2%	B
	収益確保指標	老人保健施設利用率	%	86.5	87.9	93.0	**86.2**	98.1%	92.7%	B
		通所リハビリテーション延利用者数	%	7,523	7,002	7,260	**6,593**	94.2%	90.8%	B
	経営安定性指標	看護師数	人	7	7	7	**8**	114.3%	114.3%	S
		介護職員数	人	16	16	17	**15**	93.8%	88.2%	C
		医療技術員数	人	12	12	11	**12**	100.0%	109.1%	A
家庭医療事業										
	収支改善指標	事業収支比率	%	102.2	102.5	103.3	**99.9**	97.5%	96.7%	B
	費用削減指標	給与費比率【マイナス目標】	%	65.8	70.0	64.9	**67.1**	104.3%	96.7%	B
		経費比率【マイナス目標】	%	17.4	16.0	16.3	**16.3**	98.2%	100.0%	A
	収益確保指標	延べ外来患者数	人	24,334	24,892	26,136	**22,914**	92.1%	87.7%	C
		外来診療単価	円	5,358	5,133	6,200	**5,170**	100.7%	83.4%	C
		訪問診療件数	件	1,228	1,393	1,307	**1,219**	87.5%	93.3%	B
		訪問診療単価	円	39,740	40,711	45,500	**46,624**	114.5%	102.5%	A
		訪問リハビリ件数	件	4,505	5,253	4,840	**5,281**	100.5%	109.1%	A
		訪問リハビリ単価	円	3,160	3,109	3,044	**3,004**	96.6%	98.7%	B
	経営安定性指標	医師数	人	7	7	8	**5**	71.4%	62.5%	E
		看護師数	人	2	3	2	**1**	33.3%	50.0%	E
		医療技術員数	人	6	6	6	**6**	100.0%	100.0%	A

（進捗状況）

2025（令和 7）年度の介護事業は、看護師数が 6 人（前年比 120.0%）となり前年より 1 名増員となったものの、訪問看護件数が 5,058 件（前年比 91.4%）と減少したこと等から、事業収支比率は 82.1%（前年比 88.9%）と前年を下回り、目標（89.2%）も未達成となりました。

附帯事業では、事業収支比率が 98.1%（前年比 94.1%）と前年実績および目標（103.1%）を下回りました。老人保健施設利用率についても 86.2%（前年比 98.3%）とやや低下しており、引き続き利用率向上と収支改善が課題となっています。

また、家庭医療事業の事業収支比率についても、99.9%（前年比 97.5%）と前年実績および目標（103.3%）を下回り、収支の再改善に向けた取り組みが必要です。

3　目標達成に向けた具体的な取組に係る評価

ビジョン・重点項目			方針・施策		2025（令和7）年度評価	
					評価	主な要因・成果・課題など
① スーパーケアミックス病院						
1．医療・介護機能の充実						
	1)	高齢者医療の充実	I	スーパーケアミックス型病院として、医療から介護までのサービスを提供します	C	在宅復帰率は各病棟とも極めて良好に推移した一方、手術件数および人工腎臓件数は減少傾向が続いており、診療機能の維持が課題となっている。
			II	高齢者特有の疾患や、 生理的現象に応じた医療、 介護を充実します	B	認知症ケアや二次性骨折予防は大幅超過を達成したものの、栄養サポートチーム（NST）介入件数は大きく激減し、排尿ケアも未達成となるなど、チーム介入の偏りと体制の再構築が課題である。
			III	多職種協働した意思決定支援のもと、在宅療養支援を強化します	D	入退院支援加算に加え、介護支援連携指導および退院時共同指導が大幅に目標を下回りました。多職種協働による退院支援体制の強化が課題である。
	2)	働き手の確保	I	常勤医師、 看護師、 コメディカルなどの確保を進め、診療体制の安定を目指します	B	医師数は目標数を確保しているが、看護師や看護助手は目標を下回った。採用活動の強化と夜勤負担軽減やタスクシフト等の定着支援が引き続き重要な課題となっている。
			II	当圏域内 各病院 と 連携を強化し、職員派遣等の 仕組みを検討します	A	聖隷浜松病院からの薬剤師派遣受け入れに加え、圏域内5病院長事務長会議を通じた広域的な連携・相互支援体制の構築に向けた協議が着実に進展した。
	3)	人材の育成・確保	I	将来の経営を担う人材育成の教育体制を充実します	B	全職員対象資質向上研修および目標管理発表会を開催。一定の教育体制を維持したものの、受講率・実施回数のさらなる底上げと次世代リーダー育成が今後の焦点となる。
			II	将来の地域医療を担う総合医の育成を進めます	C	御前崎市家庭医療センターしろわクリニックを中心としたプログラムを継続したが、家庭医在籍数は5.0人にとどまり、専攻医・研修医の着実な獲得・育成に向けたプロモーションの再構築が必要である。
			III	将来の医療人材確保のために、小中高生に向けた講習や体験会の実施、大学生・専門学生に向けたリクルーティング活動を強化します	A	小中高生向け体験会や学生実習の受入れを計画通り継続実施。養成校への定期訪問やPR活動を通じて、将来の医療人材の囲い込みに向けた基盤づくりを進めた。

※定量的な進捗評価は、「別表：病院計画実績評価票」の評価指標実績に基づき実施。（以下同様）

2．連携機能の強化・地域包括ケアシステム支援						
	1)	医療・介護施設との連携強化	Ⅰ	地域医療・介護施設等と連携を密にし、地域包括ケアシステムに貢献します	**A**	医療施設への訪問件数は目標を超過。紹介率・逆紹介率ともに堅調に推移し、地域連携の役割を果たした。
			Ⅱ	当院と家庭医療センターの連携を強化し、地域包括ケアシステムに貢献します	**C**	しろわクリニックからの患者紹介および逆紹介はともに目標未達成となり、定期会議の運用を含めた相互連携の再活性化が引き続き課題である。
			Ⅲ	家庭医療センターによる訪問診療、訪問リハビリを提供し、在宅サービスの強化を図ります	**A**	訪問診療はやや計画を下回ったものの、訪問リハビリは順調に推移し、在宅生活の継続支援に貢献した。
			Ⅳ	地域に不足する訪問看護サービスの強化を図ります	**C**	訪問看護件数は計画を下回り、人員体制の安定化と訪問件数拡大に向けた体制強化が継続課題である。
	2)	救急機能の堅持	Ⅰ	当圏域内 の 施設と連携 を図り、 後方支援病院の役割 を担います	**B**	救急車受入件数、応需率ともに高い水準を確保。訓練参加者数等に課題が残るものの救急受入機能を堅持した。

② 健全経営・働きやすい環境整備						
3．健全経営						
	1)	健全な経営の実現	Ⅰ	健全経営に向け、病床稼働率を高めるなど、経常収支黒字化を目指します	**C**	延入院患者数（病床稼働率）および延外来患者数はいずれも目標を下回り、修正医業収支比率は77.5%（B評価）と苦戦。病床コントロールと集患対策の強化が必要である。
	2)	業務の効率化	Ⅰ	タスク・シフト/シェアに取り組み、各部署の業務の効率化を進めます	**A**	医師看護師負担軽減検討委員会を中心に、「医師と医療関係職種における役割分担」、「看護師と医療関係職種における役割分担」、「看護師間における役割分担」の3つのテーマに関し、53項目の取り組みを設定し、うち51項目を実施した。
			Ⅱ	ＤＸの導入によってタスクシフティングを進めます	**C**	医療DXの導入は情報システム委員会が中心となって検討を進めている。令和8年度の電子カルテシステム更新（予定）に併せ、費用対効果を考慮した具体的検討を進める予定である。
	3)	費用削減・人員配置	Ⅰ	委託費等の経費を見直し、費用削減に取り組みます	**B**	医薬品費比率や診療材料費比率の抑制が進んだ一方で、病院部門や介護部門の経費比率が上昇傾向にあり、部門ごとの予算管理とさらなるコスト削減努力が引き続き課題である。
			Ⅱ	人員配置を最適化し、人件費の適正化を図ります 各部門の体制を見直し、病院事業全体の最適化を図ります	**C**	家庭医療部門をはじめ、介護・附帯部門では給与費比率が概ね目標範囲内で推移したものの、収益の伸び悩みや体制維持に伴い、病院部門の給与費比率が上昇した。業務効率化と適切な人員配置による人件費の適正化が急務である。
			Ⅲ	施設設備の老朽化に伴い発生する修繕や取替工事等の計画を策定し、施設管理コストの最適化を図ります	**A**	施設管理計画達成率100.0%（A評価）を維持。計画的な設備修繕・工事の実施により、管理コストの突発的な増大を抑制した。
	4)	ＤＸ化への対応	Ⅰ	ＤＸ化を推進するためにＩＴ人材の育成・確保を検討します	**D**	IT人材確保方針の了承は得られたが、経営状況の厳しさから専門人材の採用は見送られている。引き続き外部専門家の活用や部署間連携を進めつつ、IT人材確保に向けた検討を継続する必要がある。
			Ⅱ	全職員のＩＴ関連の知識向上を目指します	**B**	全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施した。

4．職員が誇りをもてる職場づくり						
	1)	市民に愛される病院	Ⅰ	職員が誇りを持ち、市民に親しみを持ってもらうため、広報活動を促進します	**B**	病院祭の開催やSNS発信の強化により一定の広報成果を得たものの、公式HPの閲覧数が伸び悩んでおり、多角的な情報発信の最適化が求められる。
			Ⅱ	職員は定期的な接遇研修を受講するなど、更なる接遇向上を目指していきます	**A**	アンガーマネジメント研修を実施し、58名が参加した。事後アンケートの満足度は96.7%であった。今後はさらに多くの職員が参加できる研修内容・開催方法を検討し、接遇力の向上を図る。
	2)	働きやすい職場環境の整備	Ⅰ	ハラスメント防止・医療安全に努め、働きやすい環境を整備します	**D**	インシデント報告、ヒヤリハット報告、医療安全ラウンドなど多くの指標が目標を下回り、安全管理体制の再徹底が課題である。
			Ⅱ	子育て・介護支援・定年延長などの制度を活用し、働き続ける環境整備を進めます	**B**	令和7年度の離職率は7.5%で前年の8.9%から改善したが、目標の6.5%には達しなかった。引き続き子育て・介護支援など制度活用を推進し、働きやすい環境整備に努める。
	3)	キャリア形成	Ⅰ	職員の専門性を 高め るための 支援を行います	**A**	令和7年度は新たに認知症看護認定看護師が1名追加され、認定看護師は合計7名となった。今後も職員の専門性向上を支援し、質の高い看護の提供に努めていく。
			Ⅱ	自ら学び、地域のニーズに応えることのできる職員の能力開発を推進します	**A**	職員満足度調査の実施を通じて現場ニーズの把握を実施。調査結果を踏まえた改善策への着手が期待される。

4　収支計画

1．収益的収支

（単位：千円、%）

区分 ＼ 年度		2023年度 令和5年度 （実績）	2024年度 令和6年度 （実績）	2025年度 令和7年度 （実績）	2025年度 令和7年度 （計画）	2026年度 令和8年度 （計画）	2027年度 令和9年度 （計画）
収入	1. 医業収益 a	4,290,305	4,391,296	**4,053,424**	4,869,370	4,970,832	5,125,260
	(1) 料金収入	3,494,821	3,523,848	**3,245,827**	4,016,483	4,112,211	4,287,553
	(2) その他	795,484	867,448	**807,597**	852,887	858,621	837,707
	うち他会計負担金 x	125,300	130,000	**130,000**	120,000	120,000	120,000
	2. 医業外収益	719,779	676,799	**647,780**	985,222	933,228	922,991
	(1) 他会計負担金・補助金	155,900	116,200	**56,200**	334,000	259,000	254,000
	(2) 国（県）補助金	455,184	450,571	**487,239**	501,000	501,000	501,000
	(3) 長期前受金戻入	95,199	90,897	**90,065**	135,912	158,918	153,681
	(4) その他	13,496	19,131	**14,276**	14,310	14,310	14,310
	経常収益 (A)	5,010,084	5,068,095	**4,701,204**	5,854,592	5,904,060	6,048,251
支出	1. 医業費用 b	5,214,046	5,170,143	**5,059,438**	5,548,568	5,697,997	5,735,981
	(1) 職員給与費 c	3,052,149	3,013,376	**3,052,730**	3,209,682	3,247,537	3,265,257
	(2) 材料費	671,707	615,179	**545,750**	780,765	801,627	838,015
	(3) 経費	1,012,735	1,069,512	**1,030,558**	994,155	995,445	1,002,091
	(4) 減価償却費	458,516	425,178	**412,285**	539,635	620,182	610,123
	(5) その他	18,939	46,898	**18,115**	24,331	33,206	20,495
	2. 医業外費用	239,632	233,371	**264,745**	232,831	236,197	236,029
	(1) 支払利息	3,579	3,570	**4,842**	4,109	4,363	4,190
	(2) その他	236,053	229,801	**259,903**	228,722	231,834	231,839
	経常費用 (B)	5,453,678	5,403,514	**5,324,183**	5,781,399	5,934,194	5,972,010
経常損益 (A)−(B) (C)		▲ 443,594	▲ 335,419	**▲ 622,979**	73,193	▲ 30,134	76,241
特別損益	1. 特別利益 (D)	6,503	7,588	**21,705**	0	0	0
	2. 特別損失 (E)	3,807	37,149	**21,234**	0	0	0
	特別損益 (D)−(E) (F)	2,696	▲ 29,561	**471**	0	0	0
純損益 (C)+(F)		▲ 440,898	▲ 364,980	**▲ 622,508**	73,193	▲ 30,134	76,241
累積欠損金 (G)		678,704	1,048,074	**1,666,544**	632,885	663,018	586,777
流動資産 (ア)		1,802,240	1,690,192	**1,877,833**	1,877,833	1,872,266	2,073,117
流動負債 (イ)		554,666	680,124	**599,084**	599,084	634,038	525,208
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)}\times 100$		91.9	93.8	**88.3**	101.3	99.5	101.3
修正医業収支比率 $\frac{a-x}{b}\times 100$		79.9	82.4	**77.5**	85.6	85.1	87.3
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a}\times 100$		71.1	68.6	**75.3**	65.9	65.3	63.7
病床利用率		78.1	80.0	**74.0**	82.6	83.9	89.5

2. 資本的収支

（単位：千円、％）

区分 ＼ 年度		2023年度 令和5年度 （実績）	2024年度 令和6年度 （実績）	2025年度 令和7年度 （実績）	2025年度 令和7年度 （計画）	2026年度 令和8年度 （計画）	2027年度 令和9年度 （計画）
収入	1. 企業債	20,000	134,300	**83,200**	100,000	300,000	100,000
	2. 他会計出資金	20,000	0	**0**	50,000	50,000	50,000
	3. 他会計負担金	0	0	**0**	0	0	0
	4. 他会計借入金	0	0	**0**	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	**0**	0	0	0
	6. 国（県）補助金	0	0	**8,140**	0	0	0
	7. その他	50	0	**0**	0	0	0
	収入計 (A)	40,050	134,300	**91,340**	150,000	350,000	150,000
支出	1. 建設改良費	153,235	272,775	**155,955**	285,800	621,000	300,000
	2. 企業債償還金	98,271	101,429	**114,975**	144,343	157,603	190,462
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	**0**	0	0	0
	4. その他	0	0	**0**	13,405	13,405	18,025
	支出計 (B)	251,506	374,204	**270,930**	443,548	792,008	508,487
差引不足額 (B)−(A) (C)		211,456	239,904	**179,590**	293,548	442,008	358,487
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	225,556	264,964	**193,074**	293,548	442,008	358,487
	2. 利益剰余金処分額	0	0	**0**	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	**0**	0	0	0
	4. その他	857	1,459	**810**	0	0	0
	計 (D)	226,413	266,423	**193,884**	293,548	442,008	358,487

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

（単位：千円）

	2023年度 令和5年度 （実績）	2024年度 令和6年度 （実績）	2025年度 令和7年度 （実績）	2025年度 令和7年度 （計画）	2026年度 令和8年度 （計画）	2027年度 令和9年度 （計画）
収益的収支	(570,000)	(650,000)	**(630,000)**	(795,000)	(715,000)	(700,000)
	946,200	966,200	**856,200**	1,150,000	1,050,000	1,000,000
資本的収支	(0)	(0)	**(0)**	(0)	(0)	(0)
	20,000	0	**0**	50,000	50,000	50,000
合計	(570,000)	(650,000)	**(630,000)**	(795,000)	(715,000)	(700,000)
	966,200	966,200	**856,200**	1,200,000	1,100,000	1,050,000

（注）

1 （ ）内はうち基準外繰入金額。

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」（総務省自治財政局長通知）に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう。

5　2025（令和７）年度の経営状況

2025（令和 7）年度は、延べ入院患者数が 53,758 人（前年比 92.6%）、延べ外来患者数が 62,237 人（前年比 93.2%）と、ともに前年実績および目標を下回りました。また、外来診療単価の低下（14,782 円、前年比 99.2%）や、介護事業における訪問看護件数の減少（5,058 件、前年比 91.4%）等も重なり、各事業で収支が悪化しました。　これらの結果、経常収支比率は 88.3%（目標 101.3%）、修正医業収支比率は 77.5%（目標 85.6%）にとどまり、いずれも前年度（経常 93.8%、修正医業 82.4%）を下回る厳しい結果となりました。繰入金を除いた実質的な医業収支の赤字幅は依然として大きく、累積欠損金比率も 41.1%（前年 23.9%）へと拡大しており、経営の健全化に向けた抜本的な体質強化が喫緊の課題となっています

6　現状の課題

（１）資金ショートの懸念と持続性の限界（最重要課題）

令和 7 年度、年間約 8.6 億円の繰入金措置を行いながら、さらに当年度純損失約 6.2 億円（現金減少額約 4.9 億円）が累積する収支構造により、手元資金の減少が深刻な状況となっています。また、行政も人口減少に伴う税収減等により財政事情が緊迫しており、これ以上の財政支援は困難な状況です。現状の経営構造を維持したままでは近い将来に確実に資金ショートを引き起こし、地域医療の継続が不可能となるリスクが顕在化しています。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
現金残高	1,383,897,903	1,336,342,759	1,123,982,354	1,046,676,289	557,454,157
前年比	93,307,016	−47,555,144	−212,360,405	−77,306,065	−489,222,132
繰入金	1,078,120,000	1,028,036,000	966,200,000	966,200,000	856,200,000

（２）医療需要の変化と診療供給体制の不一致（病院本体）

外来・入院ともに高齢者救急等の地域実需が中心となる中、従来の高度医療に対応した一般急性期主体の病棟体制や全方位的な 15 診療科体制を維持することで、ニーズに即した医療提供体制への移行や病床規模の適正化が遅延しています。

（３）周辺事業の潜在的不採算構造

付帯事業（老人保健施設）及び家庭医療事業は、恒常的に一般会計からの繰入金（各約１億円）を投入することで、表面上の収支均衡を維持している構造にあります。

（４）実稼働を超過した職員体制

患者数の減少に対し、組織規模の縮小やスタッフ配置の適正化への対応が遅れたことにより、医業収益に対する人件費率が高止まりしています。

7　今後の経営方針

少子高齢化に伴う地域医療需要の変化、物価高騰、人件費負担の増大など、公立病院を取り巻く経営環境は非常に厳しさを増しています。さらに、築 40 年となる当院施設の老朽化への対応も含め、従来の経営形態にとらわれない抜本的な事業構造の見直しが必要です。

急激に進む少子高齢化や医療需要の質的変化に対応するため、病床数の適正化（約 50 床削減）及び急性期一般病棟の地域包括医療病棟への機能転換を推進し、効率的かつ最適な医療提供体制を構築します。また、医療・介護人材の適正配置を進めるとともに、老人保健施設はまおか等の附帯事業の見直しや周辺自治体・医療機関・介護施設との機能分担および連携強化を推し進め、持続可能な地域医療提供体制の確立に向けた具体的な施策を迅速に実行してまいります。

市立御前崎総合病院 第４期中長期計画
2025（令和７）年度 点検評価報告書

市立御前崎総合病院
〒437-1696
静岡県御前崎市池新田 2060
TEL（0537）86-8511